

年頭のご挨拶

奈良県信用保証協会 会長 松谷幸和



令和四年の新春を迎え謹んでお慶び申し上げます。

皆様方におかれましては、平素より当協会の業務に格別のご支援とご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、2020年に勃発した新型コロナウイルスが瞬く間に拡散し、世界経済ならびに日本経済に大きな影響を与え、未だ収束の見通しはたっておりません。

そのような状況下、昨年は延期されていた「東京オリンピック・パラリンピック競技大会」開催等の明るいニュースが飛び交ったものの、依然、日本経済は厳しい状況が続いています。また、相次ぐ緊急事態宣言の発出により、観光関連や飲食関連事業などのサービス業の経営環境は著しく悪化しました。

昨年下半年にかけて、日本国内では新型コロナウイルス接種が進み、

感染者数は減少傾向にありましたが、新たな変異株（オミクロン株）が発見され、日本国内は再び脅威にさらされている状況です。

県内中小企業・小規模事業者を取巻く経営環境は、依然、生産性の伸び悩みや経営者の高齢化による休業の増加、ならびに人手不足の深刻化などの懸念材料を抱えています。

今後、コロナと共存していく中で、私たちの日常生活は大きく変化し、それに伴って、テレワーク等の「新しい働き方」が広まってきていますが、当協会では、感染予防を徹底し、対面重視で、引続き経営改善支援や事業承継支援に注力し、中小企業・小規模事業者の皆様へ寄り添える「よき相談相手・よきパートナー」となることを目指しています。

コロナ禍で厳しい経営状態にある中小企業・小規模事業者の皆様におかれましては、さまざまな局面で必要とされる多様な資金需要に対し、トータルサポートのできる信用保証協会として、今後とも地域に根差し、地域経済の発展を促し、生産性向上・地方創生に寄与するべく努めてまい

りますので、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和四年（2022年）の干支は「壬寅（みずのえとら）」です。

「壬寅（みずのえとら）」は、「陽気を孕み、春の胎動を助く」、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれる年という意味になるそうです。

「新型コロナウイルス」という厳しい年を経験し、本年はより良い一歩が踏み出せる1年となれるよう、当協会が掲げるキャッチフレーズ「企業とともに未来を拓く」の下、県内の中小企業・小規模事業者の皆様へのニーズにお応えできるよう努めてまいります。

新年を迎え、常に初心を忘れず、中小企業・小規模事業者の皆様へ寄り添い、業務に邁進してまいりたいと思います。

最後になりましたが、本年が皆様にとって更なる飛躍の年となりますことを祈念致しまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。